

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2018年2月号>

131号 2018.02.01 配信

厳しい寒さの中で草花は開花の準備を始め、立春の頃には、美しい花々を咲かせます。同じように力を蓄えた選手たちは、まもなく開催される平昌オリンピックで大いに活躍されることでしょう。熱い声援を送りたいと思います。

■同窓会だより

◆光葉ワーキングネットワーク『食』関連のご案内 詳細は、臨時号でお知らせします

『食』関連ネットワーク

日時： 2018年 3月17日(土) 11:00~14:30 定員40名
場所： 丸の内タニタ食堂(昼食のみ) 講演会別会場(未定)
テーマ： 「食を通して健康と伝統を伝える」
講師： 実践料理研究家 岩木みさき氏 (2009年 食物科学科卒)
申込先： e-mail: working@swu.ac.jp FAX: 03-3411-4066
締切り： 3月5日(月)

◆光葉ワーキングネットワーク オープンミーティング

1月20日(土)、学園本部館会議室で行いました。「ワーキングネットワークの今と未来」のテーマで、初めてワールドカフェ形式の意見交換をしました。今まで集客に拘っていた面があり、今後は人数にとらわれないミニセミナーなどを年間計画で企画し、同窓会会報などで広く呼びかける。またテーマについては、各ネットワークが柔軟に共有できるものが望ましいなどの意見が挙がりました。これからも皆様に関心を持っていただける情報や交流の場を提供してまいります。

■学園だより

◆東明忌 本学の基礎を築かれた学父人見圓吉先生と学母緑先生のご遺影が飾られます。

日時 2018年2月1日(木)・2日(金) 10:00~16:30
場所 学園本部館 1階ロビー

◆キャリア支援センターから 「2018年度春期 社会人メンター募集のお知らせ」

学生が社会人から、仕事や実社会での経験を伺うことで、将来働く自分の姿を具体的に考える機会を大学が提供する制度です。皆様、ぜひ後輩のためにご応募ください。(現職者歓迎)

募集期間：2018年3月1日(木)～3月23日(金)

応募要件：原則3年以上の社会人経験のある女性 ※詳細は募集要項をご参照ください

応募方法：募集期間中、大学ホームページ (<http://univ.swu.ac.jp/>) の「お知らせ/公開講座イベント」欄にて、募集要項ならびに応募フォームをご案内いたします。

選考方法：書類審査のうえ、面談させていただきます。

○社会人メンターについては、<http://dream.swu.ac.jp/recruitment> をご参照ください。

■広げよう光の葉

佐々木 信子さん

1975年 文家政学部生活科学科卒 (秋田大学教授)

「世の光となろう」 昭和女子大学に入学して間もなく、私の心に強烈に響いた言葉が「世の光となろう」でした。18歳の自分なりに解釈し、将来、社会に貢献できる仕事に就きたいと密かに思ったものでした。

卒業後は、故郷秋田で高校家庭科教員として勤務。3年間の講師の後、教諭として28年勤務しました。その後、教頭(兼)教育専門監を経て県立高校校長を拝命いたしました。

ここでは、校長として勤務した2校の実践を紹介したいと思います。

秋田県最南端に位置する県立雄勝高校に赴任した時には、定員割れが続き、地元では廃校の噂がささやかれていました。この危機を打開するため、学校の特色や魅力を地域に情報を発信して生徒募集につなげることを目標に、“将来構想”“魅力創造”“学力向上”の三つのプロジェクトを立ち上げ、体験学習を重視した特色ある学校づくりに取り組みました。地域に情報を発信するためには、チャンスを最大限生かすことが重要です。

そんな時ひとつのチャンスが訪れました。NHK仙台放送局の番組「おいしい東北闘技場」への出演依頼が舞い込んできたのです。対戦相手は東北各県の著名な調理師専門学校生。60分ノンストップでテーマに合わせた5人前の料理を仕上げるという企画でした。

誰の目にも大変難しい挑戦であることは明白でしたが、生徒達は悪戦苦闘の末、短い期間に地域の食材である「鮎」を使ったオリジナル料理を完成させました。地道な努力と周囲の熱い応援が実を結び、予選を突破。勝ち進んだ3チームが「ふるさとの冬」をテーマに対戦した決勝大会では、最優秀賞を受賞しました。普通科に学ぶ普通の生徒が、専門技術を学ぶ調理専門学校生に勝利していく様子はテレビ放映され、学校や地域は感動に沸き立ちました。

この挑戦には偶然の要素もありましたが、地域の方々の惜しみない協力と温かく熱いご支援の賜であったと思います。そして、学校の存在意義を示すまたとない機会となりました。翌年の前期選抜試験倍率が全県トップとなったことは今でも鮮明に記憶に残っています。

翌年に赴任した雄物川高校では、学校経営の重点目標に「地域ぐるみの防災」を掲げました。東日本大震災から1年、避難所となる学校が主体となった避難訓練はまだ行われていませんでした。訓練には、地元の地域局、消防署、駐在所、地区消防団など約400名が参加し、全校生徒、全職員がそれぞれの持ち場で、自ら判断し行動するという大規模な合同避難所設置訓練となりました。

午後は、釜石市防災危機管理課長(当時)による講演会を開催。「釜石の奇蹟」として報道された釜石市内の小中学校での震災直後の避難所の課題や体験を紹介していただきました。生徒たちは、報道では知りえなかった想像を絶する出来事を真剣に受け止め、命を繋ぎ止める避難所の役割や避難所での冷静な対応、自ら判断し行動することの大切さを実感したと述べています。

地域と学校が協働で行う訓練は、人々の命や生活を守るだけでなく、地域を担うリーダーの育成や地域の生活を支える拠点づくりとしての意味をもちます。高校生が地域の一員として社会参画することは、少子高齢化における地域の喫緊の課題を解決する学校教育の役割であることを痛感しました。

現在は、秋田大学教育文化部准教授として着任したのち教育実践講座教授として教員養成に携わりながら、文部科学省や县市町村等からの依頼を受けて各委員や講演会等の仕事を行っています。

昭和女子大学で出会った「世の光となろう」という言葉は、これまでの挑戦の原点です。これからもこの言葉に支えられ、微力ながら少しでも社会貢献ができれば嬉しいと思っています。 End